

Ja-Net

April 2012 No. 61

季刊ジャネット

Ja-NetはJapanese Networkの略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

Contents 目次 2012年4月25日発行

- View from the Other Side 3
ジュルジェフ・ヴラディミルさん (ブルガリア)
- あちこち日本語ご紹介〈国内編〉..... 4
大阪府大阪市
- あちこち日本語ご紹介〈海外編〉..... 5
ポーランド グダニスク
- 教材紹介 6
『みんなの日本語』シリーズのお知らせ
『ロールプレイで学ぶビジネス日本語』
『初級からはじまる「活動型クラス」—ことばの学びは学習者がつくる—』
- なんでも情報BOX..... 8

スリーエーネットワーク

巻頭
寄稿

「ヘルンさん言葉」—小泉八雲の日本語—



金沢朱美
前白大学教授

小泉八雲(帰化以前の名前ラフカディオ・ハーン Lafcadio Hearn. 以下ハーン。)は明治期に日本に在住した再話文学者、民俗研究者、日本古来の美の発見者および紹介者として著名な人です。ですから、ハーンは非常に日本語が堪能だと思っている日本人もたくさんいます。しかし、日常言語活動における日本語が自ら「ヘルンさん言葉」と呼ぶ、標準日本語から文法が逸脱した、ハーン独特の、日本語の変種となっていたことはそれほど知られていません。

ここではハーンとその妻小泉セツの「ヘルンさん言葉」と呼ばれる言語が一体どのような特質をもった言語であるのか、そしてその意義は何かをお話します。

「ヘルンさん言葉」で書かれた書簡にはひらがなの書簡とかたかなの書簡があります。これらは「ヘルンさん言葉」の書き言葉ですが、話し言葉のほうは小泉節子(1914)『思ひ出の記』にセツの脳裏と心に保存された形で記録されています。書き言葉といっても、ハーンは当時の煩雑な漢文体や候文体や擬古文体を全然習得しませんでしたから、ハーンの書き言葉は話し言葉と同じです。話し言葉が「です・ます体」の丁寧体であるところは、現在の外国人学習者が「です・ます体」

のほうが普通体より習得しやすいのと同じですね。セツは士族の娘でしたから、言葉遣いは全部丁寧体でした。これは現在のティーチャー・トーク(teacher talk)のようです。

しかし、ティーチャー・トークと違うところは動詞の活用を正しく使わずに、ハーンが理解しやすいように全部辞書形(dic. form)にしてしまったことです。ですから言語教育において第二言語習得に役立つといわれるフォリナー・トークではなく、移民の多い国でよく使われる活用形を無視したコミュニケーションが目的の原初的なフォリナー・トークです。

ハーンにとってはセツが最大の日本語環境ですから、ハーンの日本語とセツの日本語は互いに相似し、呼応しています。以下はセツの書簡です。

…パパサマ、アナタ、シンセツ、ママニ、マイニチ、カワイノ、テガミ、ヤリマス。ナンボ、ヨロコブ、イフ、ムツカシイ、デス。アナタ、カクノエ、ヒキフ子ノエ、オモシロイ、デス子一。ワタシラ、ハヤク、やいづエ、マイリマスト、パバノカオ、ミルト、オモシロイノ、コトバ、キク、大イー[ダイ]、スキ。(中略) イマ、大久保ノイエニ、ダイク、アリマス。パ

パサマノ、カワイノ、ベンキヤウノ・マト、ストウフノ、マ、ナオスデスヨ。(以下、略。)(1904年8月18日付、焼津のハーン宛)

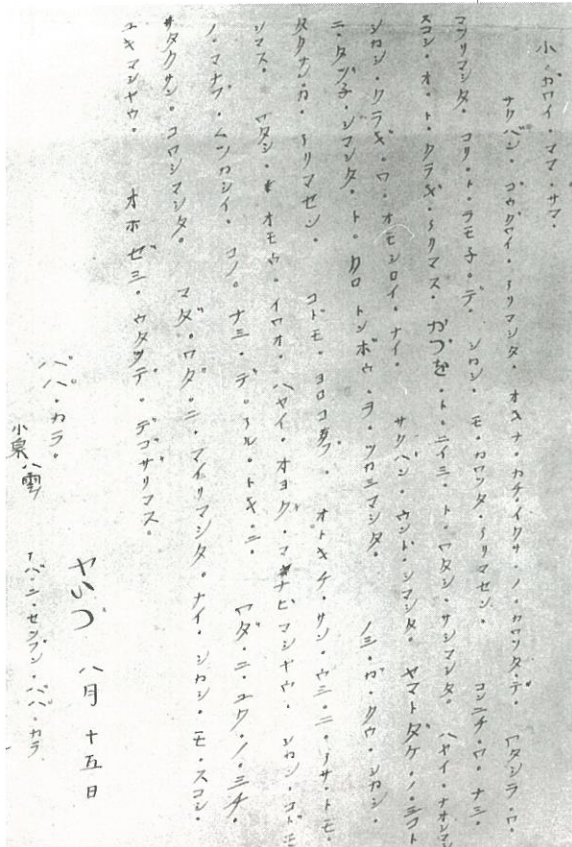
以下はハーンの返書です。

…小・ママ・サマ・アナタ・ノ・タクサン・カワイ・テガミ・アリマス・ダイク・ワ・ト・カベヤ・ワ・アリマス・ト・キク・カラ・タクサン・ヨロコブ・コンニチ・アサ・ウミ・ガ・ツノ・ヨナ・アライ・オヨグ・スカシ・ムツカシイ・デスカラ・ワダ・ニ・マイル・オトキチ・サン・デ・ト・オモウ・(以下、略。)(1904年8月19日付)

次はかたかなよりも習得が難しかったと思われるひらがな書簡です。

かわいまんまん
きやう あさ うどしました(中略)ば
ばの於きなはらいまたくさん於きな
し
かしま江ばんきものと於びのくいします
ま江ばんびわの人うる よきびわ・わ
たしらどもわ たくさんのみます・てん
けいいま大よろし・かづをくろいとなる
あみました小ねこミヤウミヤウといま
ました(後略)(1904年8月)

ハーンが長男一雄に英語を教えていたと



ハーンからセツへの手紙



ハーン(小泉八雲)



小泉セツ

きの状況やセツ宛の書簡を見ると、ハーンの日本語は耳から習得した知識のみで、英語における思考の形式をそのまま転移したものであり、体系的な日本語学習はほとんどしなかったと思われます。例を挙げると、

It is a dog. → それです一犬。 /

私は巖が早く泳ぐことを学ぶだろうと思う。 → ワタシ・オモウ・イワオ・ハイ・オヨグ・マナビマシヤウ

記録されている形容詞の表記は「カワイ、チサイ、オキ」等のように長音脱落を示しており、動詞、助動詞、形容詞、形容動詞の活用がなく、助詞や接続詞の運用、レキシコンの使用法等、標準日本語から逸脱していますが、ハーンは一定の規則性を以て運用しています。ハーンは日本語は、第二言語学習中に誤用を産出しながら、徐々に正確さの生成へと近づいて行く過程における言語という意味での中間言語のごく初期の段階で化石化してしまい、セツとともに積極的に別の固定した一定の規則性をもった体系を創りだしてしまっただけです。文構造は単純化されていますが、内容については詳述化されており、擬態語や擬音語(オノマトペ)を効果的に使っています。「ヘルンさん言葉」に現れた表現は色彩感や音感に満ちており、独特の世界を形成しています。

色彩感や音感を感じる表現として「(朝顔が) ムラサキ、四ツ、アカニツ、サキマシタヨ」(8月23日付書簡)「ミナ女デ、ヤカマシデシタヨ、ホホホホ」(同)等が見られます。

…パパノカワイガルノ、バシヤウ、大キ大キデス。ナンボ、タクサン、ハ、アリマス。シカシ、ミナ、ニワノ木、イイマシタ。ダンナサマ、ルス、サムシイデス子一、ト、イイマスヨ。セミ、アサカラ、ウタウ、ミン、ミン、ミン、ミン、ミン、ツク、ツク、ウイス、ツクツクウエス。ウエヨース、……(前掲8月18日の書簡)

とあり、庭の芭蕉の様子、蟬の鳴き声等が情感豊かに擬人化や擬音語を駆使して活写されています。また、東京のセツから焼津に滞在する幼い長男一雄に宛てた同年8月の書簡の中にも、「さよなら下駄の音カタカタカタ……」という表現が見られます。

聴覚に優れていたハーンはセツの擬音語の音感をもつ雰囲気から詩想を得たり、着想を得ました。セツへの書簡で焼津の祭礼に触れて「ヤレ ヤレ ハヤト」と神輿を担ぐ者の様子を擬音語で書き止めたり、クラゲを「ギーと刺すので、クラギの方が感じがでる」から「クラギー」と言ったりしました。両者とも少ない語彙でも豊富な擬態語や擬音語を使うことで情感豊かな表現に成功し

ています。

「耳なし芳一の話」を産みだしたときの苦勞について、セツは次のように述べています。

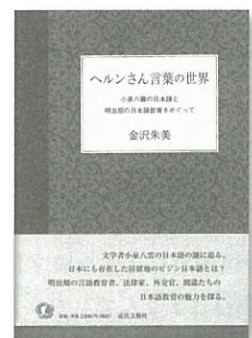
…寂しそうな夜、ランプの心を下げて怪談を致しました。(中略)「アラッ、血が」あれを何度も何度もくりかへさせました。どんな風をして云ってたでせう。その声はどんなでせう。履物の音は何とあなたに響きますか。その夜はどんなでしたらう。私はかう思ひます、あなたはどうです、などと本に全くない事まで、色々相談致します。(小泉節子『思ひ出の記』)

とあり、セツのオノマトペやフォリナー・トークがハーンの日常言語活動だけでなく、著作活動にも大きく貢献したことがわかります。

「ヘルンさん言葉」は、ハーンのプロークン・ランゲージとセツのフォリナー・トークとの相互作用によって徐々に安定性のある体系的なピジン性の強い一変種になっていったと考えられます。「ヘルンさん言葉」の今日的意義を考えると、現代における日本語の国際化を見据えたさまざまな試みの底に流れる思想と通底するものがあることに気づきます。セツはハーンの死去まで14年間、フォリナー・トークを使い続けました。「ヘルンさん言葉」が百年以上の時を超えて、日本語教育や日本語の国際化に示唆するものを考えたいと思います。

金沢朱美(かなざわ・あけみ)

3月まで白鳥大学・同大学院教授。日中学术交流振興学会編集査読委員。1947年生まれ。専門は日本語教育史・社会言語学。筑波大学大学院教育研究科修了。主な著作に『ヘルンさん言葉の世界—小泉八雲の日本語と明治期の日本語教育をめぐって—』(2011、単)『日本語教育史論考第二輯』(2011、共)など。海外技術者研修協会(大阪)、国立北スマトラ大学、国立クイーンズランド工科大学等、現場経験も豊富。



『ヘルンさん言葉の世界—小泉八雲の日本語と明治期の日本語教育をめぐって—』金沢朱美 著 近代文藝社 2011年

このコラムでは、学習者の視点での話題をお届けします

ブルガリア料理、はじめました

日本でブルガリア料理店を始めたジュルジェフさんに日本でお店を始めたきっかけなどを聞きました。

◇日本語の勉強を始めたきっかけ

ソフィアで会社員として働いていたころ、当時交際していた現在の妻が日本に留学しました。留学が長くなりそうだったので、日本へ行くことを考えて、ソフィア大学の社会人クラスで日本語の勉強をはじめました。日本の歴史や文化にも興味がありました。平日の夜、仕事が終わったあとで大学へ通っていたので、あまり授業には出られませんでした。『みんなの日本語初級』を使って1年間勉強しました。そして来日後、最初の3ヶ月は妻が留学していた東京大学で日本語のクラスを受講しました。

日本ではホールスタッフとして働いていたので、ずっと日本語を使って仕事はしていましたが、日本語の勉強は、余裕がなくてできませんでした。現在は1日中調理場の中にいるので、以前ほど日本語を使わなくなってしまいました。機会があればまた勉強を始めたいと思っています。

◇ブルガリア料理店を出すきっかけ

もともと料理を作るのは好きでしたが、日本では、自分の国の料理が食べたくていろいろ作っていました。

日本に来てから4年半、ブルガリア料理店で働いていましたが、ホールスタッフの仕事でした。そのお店のブルガリア料理は日本人の好みに合わせて変えていました。そのため、ずっと本当のブルガリア料理を日本人に知ってもらいたいと思っていました。だから、チャンスがあったらお店をやりたいと、いろいろな人に話していました。そんな時、姉と今のビジネスパートナーがブルガリアで知り合い、紹介してもらい、そして一緒にお店を始めることになりました。



ジュルジェフ・ヴラディミル

ブルガリア

妻の日本留学に合わせて2006年来日。来日前にソフィア大学夜間公開講座で1年間日本語を学ぶ。2011年1月東京都大田区にブルガリア料理「ザゴリエ」開店。オーナーシェフとして毎日調理場に立つ。1979年生まれ。32歳。ブルガリア共和国スタラ・ザゴラ出身。
ブルガリア料理ザゴリエ <http://zagorie.jp/>

なるべくブルガリアを知ってもらえるようなお店にしたいと思って、インテリアなども自分たちで考えました。料理も現地と同じものを出したいと、いろいろ試行錯誤しました。

例えばヨーグルトは、売っているものを使うとやはり味が違うので、お店で作っています。毎回3〜4リットル作ります。そのほか、シレネと呼ばれる白チーズは日本ではフェタチーズが同じようなチーズとしては売られていますが、やはりブルガリアのものとはちょっと違うので、ブルガリアから輸入したのを使っています。ただ、文化が違うので全くブルガリアと同じにはできません。開店後はメニュー構成をいろいろと入れ替えて、日本人が受け入れやすいように変更しました。スープの温かさなども日本人の好みに合わせています。

◇これからどんなお店にしたいですか？

お店をはじめて1年ちょっとですが、今はまだ料理の準備だけで精一杯です。ランチとディナーの間の時間も仕込みでほとんど休憩なしです。でも余裕が出てきたら、お店をブルガリアについてもっと知ってもらいたいと考えています。ブルガリアを知ってもらうことが私の使命だと思っています。

そして食べ物ばかりではなく、文化も紹介したいのです。文化と食べ物は密接に繋がっているので、その行事に関連した食べ物を紹介していきたいと思っています。現在も、クリスマスに食べる特別なパイがあるので、それをクリスマスのメニューに入れたり、イースターのときには必ず飾る彩色したゆで卵を紹介したりしていますが、もっといろいろなことをしてみたいと思っています。料理教室や文化紹介のイベントなどもやってみたいです。

自家製ヨーグルトの作り方

お店の自家製ヨーグルトはブルガリアの味を再現したものです。

材料
牛乳 1リットル
ヨーグルト 大きじ2杯

- ① 牛乳を40度まで温めます。
- ② ヨーグルトを入れて混ぜます。
- ③ ふたをして、タオルで常温(25〜30度)で12時間置きます。

ポイント!

- ・牛乳は乳脂肪分の高いものを!
- ・温める温度は40度! 熱くても冷たくてもおいしくなりません。
- ・低温殺菌牛乳を使う場合は、いったん沸騰させて、40度まで冷ましてください。



国内編
大阪府大阪市



「The 大阪」たこ焼き作り体験

大阪で学ぶ
ことばと笑いの文化

日本メディカル福祉専門学校日本語学科 堀 陽子

当校は大阪市内にある医療・福祉系の専門学校です。系列校である日本理工情報専門学校の日本語学科とともに、大学や専門学校への進学、また就職を目指す学生たちに日本語教育を行っています。専門課程の先生方にも数学や理系科目を協力していただき、日本語能力試験や日本留学試験対策を中心に授業を進めています。



笑顔あふれる授業

◇大阪弁と標準語

日本語の試験対策授業を中心に行うため、教室内で使用するのはもちろん標準語です。しかし教室を一歩出た瞬間から、日本人学生、専門課程の先生方、アルバイト先の人、そして街で出会う人の話す大阪弁の洗礼を受けることになります。試験対策(標準語)と生活で必要なことば(大阪弁)との狭間で、どう授業を組み立てていくべきか悩みつつ、やはり基本が大事だと思い、標準語で授業を行っています。大阪弁を教えてはいないため、初めのころは耳慣れない大阪弁に苦しむことも多いようですが、そこは若く柔軟な学生たちのこと、すぐに覚えたばかりの大阪弁を教室で楽しそうに使い始めます。その吸収の早さには目を見張るものがあり、ぎこちない大阪弁を微笑ましく聞いています。

◇ボケとツッコミを織り交ぜた授業

大阪という土地柄、授業を行う上で大切にしていることがあります。それは「笑い」です。大阪人としての気質がそうさせるのでしょうか、「ボケとツッコミ」を織り交ぜなければ落ち着かないのです。楽しみながら勉強してほしいという願いを込めて、「ボケとツッコミ」を授業に取り入れています。

たとえば、学生の言い間違いや読み間違い

いなどをミスではなく「ボケ」としてとらえ、訂正するのではなく「ツッコミ」を入れていくようにしています。ただ訂正されたときよりも印象に残るようですし、恥ずかしさもなくなるようです。また高度な技である「ノリツッコミ」を入れると、語彙は2倍に増え、一石二鳥です。

最初の頃は単に間違いをしていただだけの学生たちも、日本語力が上がるにつれ、また大阪という環境に慣れるにつれ、教師の自虐ネタや「ボケ」を楽しみにするようになります。「今日はどうなのおもしろいことがおこるんだろうか」と……。

◇「ボケ・ツッコミ力」のアップ

さらに学生自ら「ボケ」を言うようにもなります。このときばかりは普段は使わない大阪弁で「なんでやねん!!」ときつくとツッコミを入れなければなりません。「ボケ」は必ず拾ってあげなければならず、教師側も気を抜くことができなくなる瞬間です。もちろん学生の「ツッコミ」力のアップも目覚ましいものがあり、ちょっとした間違いには容赦ない「ツッコミ」や「返し」が飛んできます。休み時間に「ちょっとお邪魔するね～」と連絡事項を伝えに教室に入ろうとしたら、「邪魔するんなら帰って～～～!!」などというお決まりの

「返し」が使えるようになるのです。そういったことを教えたのは私ですが、絶妙な間で使ってくる学生たちの感覚に驚かされることも多いです。

◇ことばと笑いを学ぶ

卒業を前にした学生には関西弁講座を行うこともあります。聞いて覚えた関西弁を、実際に文法化して説明すると、その変化の難しさに学生はびっくりすることも多いようです。「～ない」という否定のことばも、「ア段+へん」に単純に置き換えれば良いと思っている学生が多いのですが、実際には「しない」は「しいひん・しゃへん・せえへん・せん」ですし、「来ない」になると「きいひん・きやへん・けえへん・こおへん・こん」などバラエティに富んでいるのです。方言の豊かな語彙や多様な変化、また独特のイントネーションなど、言葉は本当に奥が深いものなのだということや、大阪弁を使いこなすことの難しさなどに気づく授業になっていると思います。

総仕上げには「吉本新喜劇」の観賞や漫才に挑戦させるなどもしています。試験対策というどちらかといえば苦しい勉強の中に「笑い」の文化を取り入れ、少しでも楽しく勉強できればいいと、授業の組み立てや雰囲気作りを行っています。



日本語ご紹介

海外編

ポーランド



書道のクラス

桜咲く国日本

祭語学学校校長 木戸・チェルニホスカ・リンダ

ポーランドでは、日本は「桜咲く国」と呼ばれていて、神秘的で美しい国というイメージがあります。日本語を勉強していない人でも、「サムライ」や「ハラキリ」、「スシ」、「ゲイシャ」などはだれでも知っています。その他にも「ありがとう」や「さようなら」を知っている人もたくさんいます。ポーランドは実はとても親日的な国で、日本文化への憧れも強く、茶道や華道、剣道や相撲などに興味があるという人がたくさんいます。

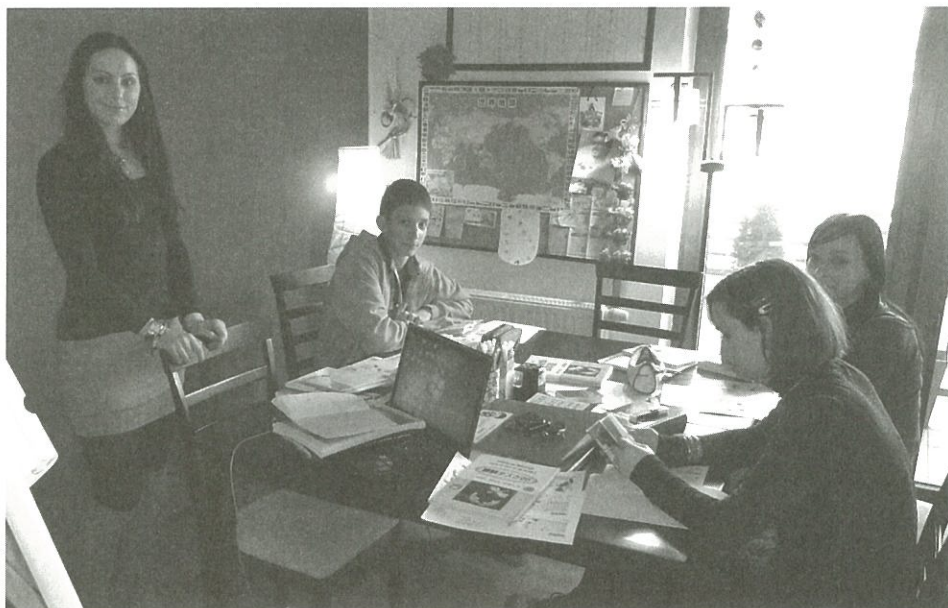
アジアでは韓国ブームという現象が見られますが、ポーランドでは日本への関心は日頃から高く、日本語学習が十数年前からブームで、その関心は年々増えています。

それを反映するように、国内には、ワルシャワ大学、クラクフ大学(ヤゲウォ大学)、ポズナニ大学、トルン大学の四つの大学に日本語学科があり、毎年受験者の数が増えています。日本語学科はいまや「名門学科」といってもおかしくはないぐらいです。

昨年の東日本大震災で日本語への興味が下がってしまうのではないかと、もう日本で勉強や仕事をしたくないと思う人が増えるのではないかと心配しましたが、心配とは裏腹に日本への関心はさらに高まっていきました。日本は強い国、そして日本人はどんなときでもあきらめないというイメージがポーランド人の心の中にあるのです。

◇祭語学学校

ポーランドではまだまだ日本ブームが続いていて、いろいろな町の外国語スクールでは日本語コースが開かれ、日本語を勉強する学生の数が増えています。日本語が学べるスクールが多いのは主に首都でもあるワルシャワやクラクフ、ポズナニといった大き



日本語クラスの様子

な都市です。私の町グダニスクではまだまだ日本語を学べる外国語スクールは少なかったのです。

日本語だけではなく、もっと日本の文化や行事、習慣を知ってほしいと思い、大学卒業と同時に日本語学校をグダニスクで開きました。祭の由来はポーランド人が「祭り」という言葉を発音しやすいこと日本語の勉強をいろいろな教材を使って楽しんでもらうという願いからつけました。

グダニスクは人口およそ461,400人で、バルト海南部にあります。グダニスクはポーランド最大の港湾都市であり、ポーランド最大の観光地でもあります。グダニスクの近くにはグディニャとソポトという町があり、これら三つの都市をまとめて「三連都市(Trójmiasto)」と呼びます。この三連都市もポーランド最大の観光地の一つでもあります。

祭はグダニスクにあります。ソポトやグディニャからもとても近いので、たくさんの生徒がその町から日本語を学びに来ます。最初は日本語だけの予定だったのが、中国語と韓国語も加え三ヶ国語が学べるアジア語学学校になりました。それでも日本語クラスの生徒数は他の言語の2倍以上です。勉強をしているのは子供、学生の他にもビジネス

マンや会社の経営者などです。ポーランドに住みながら日本語を勉強したいという外国人も数人いました。その中でも特に中国人の学習者が多かったです。

◇日本語を使って将来をつかむ

祭の生徒に日本語の学習動機を聞いたところ一番多かったのは日本の大学に入りたい、そして日本で働きたいでした。二番目は日本語能力試験に受かって将来それをどこかで活かしたい人です。三番目は日本の文化に興味がある人や日本語の本や映画、ドラマを字幕なしで見たい人、そして日本のスポーツが好きの人などでした。もちろんその中には漫画やアニメも入ります。そして最後に多かった学習動機は観光目的でした。日本旅行に行ったときに自分で旅できるように日本語での会話がスムーズにできるようになりたいとのことでした。これはポーランド人によく見られる特徴で、ポーランド人は人に頼らずいつも何にでも一人で解決するのが好きなのです。その他にも珍しい東洋の言葉を学びに来る学生や知的な好奇心が理由で始めた人も少なくはありません。

今後はさらに日本の良いところを見せ、日本をもっともっと好きになってもらうように努力するつもりです。

ロールプレイで学ぶビジネス日本語

グローバル企業でのキャリア構築をめざして

B5判 182ページ+別冊 12ページ 2,100円(税込)

村野節子・山辺真理子・向山陽子著



ビジネス日本語とともに、企業文化を知り異文化調整能力も養成

武蔵野大学非常勤講師

村野節子

◆本書のねらい

最近日本では外国人社員を採用する動きが活性化していますが、日本語が流暢に話せるというだけで留学生が企業に簡単に就職できる時代ではなくなってきています。企業では、日本人と外国人の間で価値観や習慣の違いから異文化、摩擦が起きた時、またそれ以外でも問題が起きたときに主体性を持ち適切に対処できる能力が必要です。

本書は実務レベルですぐに使える「ビジネス日本語会話能力」と異文化理解の視点に立ってさまざまな問題を多角的に考え適切に対応する能力＝「異文化調整能力」の養成を目指す教材です。

◆本書の構成と本書の特徴

各課の構成(1課ー15課)

学ぼう ビジネス会話の流れを	A. フローチャート B. モデル会話 C. 語彙・表現
	D. ロールプレイ ・モデル会話のロールプレイ ・場面や状況を変えたロールプレイ
考えよう 企業文化について	E. ケーススタディー私の言い分 ・企業文化を考えるケーススタディ
	F. 異文化ロールプレイ ・異文化理解が必要とされる複雑な状況でのロールプレイ

本書の各課は次のような二部構成になっています。「ビジネス会話の流れを学ぼう」で

は1課から15課まで一人の外国人社員が入社して業務を任されるようになるまでのストーリーを描いています。ビジネス経験の少ない学習者でも基本的な仕事の流れを理解できます。ロールプレイでは単なるモデル会話の暗記ではなく、その課の語彙・表現を使った自由度の高い会話が練習できます。ビジネス場面で通用する基本的な会話能力を無理なく身に付けることができます。

「企業文化について考えよう」では外国人が疑問を感じるテーマを取り上げました。各課は独立した内容ですので興味のある課をディスカッションテーマとして取り上げることが可能です。異文化ロールプレイはタスク先行型です。学生が主体的に会話の流れや会話を考えていくことに重きを置いています。

初級からはじまる「活動型クラス」

—ことばの学びは学習者がつくる—

『みんなの日本語』を使った教科書・活動型クラスを例に

B5判 100ページ 1,260円(税込)

細川英雄・武一美編著 金龍男・坂田麗子・村上まさみ・森元桂子著



『みんなの日本語』の学びを活動型でより豊かに

早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師

森元桂子

「文法や語彙は覚えたけれど、教室の外で思うように日本語を話せなかった。」という学習者によく出会います。「活動型クラス」では学習者が自分の考えを伝え、他者とのやりとりを通じ「生きた日本語の感覚」や「日本語で人とつながる自信」を身につけていきます。

◆本書のねらい

本書では、こうした「活動型クラス」の意義や理念は理解できても、実際に自身の現場で

実践するのが難しいという教師のために、従来の教科書使用の授業と並行したより身近な形で「活動型クラス」が始められる具体的な方法を提案しました。また、実践が困難と思われがちな「初級活動型クラス」実現の手応えと必要性を実感していただけたと思います。

◆本書の構成と特徴

全5章から成り、第2章には「活動型クラス」の15週の授業案と授業方法とともに、初級授業例の詳細を掲載。学習者が「教科書クラス」「活動型クラス」双方の学びをつなぎ、自身のことばをより豊かなものにしていく様

はじめに 学習者として教師として—日本語学習のライフストーリーから

第1章 「教科書クラス」「活動型クラス」、二つの活動

第2章 学習者がつなぐ「教科書・活動型コース」のコースデザイン

第3章 学習者の声—二つのクラスから—

第4章 活動型クラスの教室運営

第5章 拓かれる可能性へ向けて

二人の教師の体験と課題—あとがきにかえて

補説 総合活動型日本語教育の考え方とは何か
細川英雄

子がイメージできます。さらに第3章には学習者の本音が、第4章及びコラムにはクラス運営のヒントやコツがふんだんに盛り込まれ、一冊を通して「活動型クラス」の理念と方法がまるごと理解できる内容になっています。

本書が「活動型クラス」実践への第一歩となるだけでなく、教師が目指し学習者が望むクラスとはどういうものかの再考と、よりよい授業作りの一助となることを願っています。



なんでも情報 BOX

Seminars セミナー

①スリーエーネットワーク主催セミナー

「シャドーイングによる効果的な発音指導の方法」

●内容：

『シャドーイングで日本語発音レッスン』の著者戸田貴子先生による発音指導の方法の講座です。シャドーイングは知っているけれど、よくわからない、あるいはときどき授業では使っているけど実際にはただ繰り返させるだけという先生はいらっしゃいませんか。シャドーイングの方法やシャドーイングを授業に取り入れるノウハウをお伝えします。そして学習者の立場でシャドーイングの体験もできます。発音指導にシャドーイングがどのように活かせるのか、日々の発音指導のヒントが得られる講座です。

講師：戸田貴子（早稲田大学日本語教育研究科教授）

日時：6月30日（土）13：00～15：00（受付12：30）

会場：ハロー貸会議室四谷（東京都新宿区四谷1丁目5番地三陽ビル4F）

定員：40名

参加費：無料（先着順。定員になり次第、締切ります。）

②研修会「地域の日本語学習者と支援者が共に楽しく学習するために」

●内容／スケジュール：

14：00 講義1『いっぽ にほんご さんぽ 暮らしのにはほんご教室 初級2』

宿谷和子（にほんごの会会員、『いっぽ にほんご さんぽ 暮らしのにはほんご教室 初級』著者）

地域の日本語教室のための教科書『いっぽ にほんご さんぽ 暮らしのにはほんご教室 初級2』が出版されました。生活背景や日本語学習の仕方も様々な学習者が、限られた時間でも楽しんで勉強でき、コミュニケーションの道具としての日本語が習得できるようになるにはどうすればよいでしょうか。生活をより楽しく豊かにするための、学習支援の方法と一緒に考えていきたいと思います。

15：15 講義2『日本語おしゃべりのたね 第2版』

澤田幸子（海外産業人材協会（HIDA）日本語講師、『日本語おしゃべりのたね 第2版』著者）

『日本語おしゃべりのたね 第2版』は、地域の日本語教室で学ぶ外国人学習者とそのパートナーである日本語ボランティアが、楽しくおしゃべりしながらお互いのことを知ったり、日本語のことはや言ひ方を学んだりするテキストです。この本を使用した日本語交流活動の方法をご紹介します。

日時：7月7日（土）14：00～16：15（受付13：30）

会場：愛日会館（大阪市中央区本町4丁目7-11）

定員：80名

参加費：無料（先着順。定員になり次第、締切ります。）

①②問合せ / 申込み先：

スリーエーネットワーク講座係

Books ほん

すべて税込価格です

ロールプレイで学ぶビジネス日本語

グローバル企業でのキャリア構築をめざして

5月発行予定 2,100円

初級からはじまる「活動型クラス」

—ことばの学びは学習者がつくる—

5月発行予定 1,260円

『みんなの日本語』を使った教科書・活動型クラスを例に

日本語教育叢書「つくる」読解教材を作る

5月発行予定 2,100円

短期合格 日本語能力試験 N1・N2 語彙

5月発行予定 1,155円

新完全マスター聴解 日本語能力試験N3

6月発行予定 1,575円

新完全マスター文法 日本語能力試験N3

7月発行予定 1,470円（予価）

みんなの日本語中級II 翻訳・文法解説 英語版

7月発行予定 1,680円（予価）

みんなの日本語中級II 翻訳・文法解説 中国語版

7月発行予定 1,680円（予価）

TEL：03-5275-2722 FAX：03-5275-2729

E-Mail：kouza@3anet.co.jp http://www.3anet.co.jp

102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラスト麹町ビル2F

主催：スリーエーネットワーク

③地域で活動する日本語ボランティアのための研修会 in 仙台

●内容／スケジュール（予定）

13：00 研修会1「学習者の運用力を伸ばす「プロフィシエンシー重視の教育実践」

嶋田和子（アクラス日本語教育研究所代表理事）

今でも日本語教育の現場では、「分かっているけれど、実際の場面では使えない学習者」が生まれています。この問題を解決するには「学習者が日本語を使って何が、どのようにできるか」を重視した教育、すなわち、プロフィシエンシーを重視した教育を実践することが大切です。現場で教師・支援者が考えるべきこと、留意すべき点などについて、教育実践例をもとにお話します。

14：10 研修会2『『日本語おしゃべりのたね 第2版』を使用した「日本語交流活動」の方法』

澤田幸子（海外産業人材協会（HIDA）日本語講師）

『日本語おしゃべりのたね 第2版』は、地域の日本語教室で学ぶ外国人学習者とそのパートナーである日本語ボランティアが、楽しくおしゃべりしながらお互いのことを知ったり、日本語のことはや言ひ方を学んだりするテキストです。この本を使用した「日本語交流活動」の方法をご紹介します。

15：25 研修会3「わからないことは希望なのだ」

春原憲一郎（海外産業人材協会（HIDA）理事）

当日話したいと思っているのは、解決困難な問題を前にしたときの…にもかかわらず考えぬくこと、そして…にもかかわらず笑うこと、そんなユーモアに溢れた希望のもち方についてです。

* 内容／スケジュールは変更の場合もございます。

日時：6月23日（土）13：00～16：25（受付12：00）

* 日本語教材の販売は12：00から開始いたします。

会場：仙台国際センター中会議室 白樺2（仙台市青葉区青葉山無番地）

定員：100名（先着順。定員になり次第、締め切ります。）

参加費：無料

申込み：お名前、連絡先、ご所属を明記の上、下記宛にお申込みください。

問合せ / 申込み先：凡人社営業部

TEL：03-3263-3959 FAX：03-3263-3116

E-mail：ksakai@bonjinsha.co.jp

主催：アルク・凡人社・スリーエーネットワーク

Information

お知らせ

電子書籍始めます！

紙の書籍でも好評の荒川洋平先生の著書3点をデジタル版として電子書籍でも販売します。主要な電子書店での販売を予定しています。

『もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』

『続・もしも…あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』

『もしも…あなたが外国人と「日本語で話す」としたら とりあえず日本語で』

当社ホームページでも著者の荒川洋平先生による「デジタル版『もしも…』シリーズを語る」をご覧ください。

Facebook 始めました！

http://www.facebook.com/3anet.jp

いいね！をお願いします。

Ja-Net No. 61

季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア（Asia）、アフリカ（Africa）、ラテン・アメリカ（Latin America）のいわゆる発展途上国の多くが存在する三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2012年4月25日発行

● 発行人 小林卓爾

● 発行所 （株）スリーエーネットワーク

営業広報部 Ja-Net 編集室

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4

トラスト麹町ビル2F

TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729

E-mail: ja-net@3anet.co.jp

http://www.3anet.co.jp/

● 印刷 日本印刷（株）

©2012 by 3A Corporation Printed in Japan

（禁無断転載）

● 当社は2011年11月28日より、上記住所へ移転いたしました。

● 『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第62号は2012年7月25日発行です。